

# 地域社会学会会報

No.225 2022.1.27

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies  
〒020-0693 滝沢市巣子 152-52 岩手県立大学総合政策学部  
吉野英岐研究室内

TEL 019-694-2724(直) FAX 019-694-2701 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728  
E-mail [jarcs.office@gmail.com](mailto:jarcs.office@gmail.com) URL <http://jarcs.sakura.ne.jp/>

## 〈 会報 225 号のトピック 〉

- 1) 第 3 回研究例会の報告論文および批評論文（旧印象記）は、別途発行の「地域社会学会ジャーナル」No.4（WEB 版）に掲載されます。
- 2) 地域社会学会第 47 回大会の自由報告の募集を行います。詳細は 5 ページをご覧ください。
- 3) 冊子体名簿の作成にご協力をお願いします。詳細は 5 ページをご覧ください。
- 4) 会員の研究成果について、引き続き、2020 年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 WEB サイトから MS ワード版がダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメール（あるいはファックス）でお送りください。

## 目 次

2 月 5 日（土）開催の第 4 回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

1. 理事会からの報告
2. 研究委員会からの報告
3. 編集委員会からの報告
4. 事務局からの報告
5. 地域社会学会第 47 回大会の予告、自由報告の募集
6. 会員異動
7. 事務局からのお知らせとお願い
8. 会員の研究成果情報
9. 理事会のご案内

### 2021 年度第 4 回研究例会のご案内

日時 2022 年 2 月 5 日（土）13 時～16 時

方式 Zoom によるオンライン開催

前半：報告 大倉健宏（麻布大学）「コミュニティ疫学試論再考  
ー地域研究は諸科学からのラブコールに応えられるか」（仮）

後半：連続企画「コロナ禍の中の地域社会学の研究実践と教育実践  
その 2 フィールド調査をめぐって」

※アクセス方法等は、開催 1 週間程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。

## 2月5日（土）開催の第4回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

### <事前の準備のお願い>

- ◆事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、「アップデートを確認」で最新バージョンに更新しておいてください。
- ◆Zoom のアクセス方法等は、開催 1 週間程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。
- ◆Zoom のリンクやミーティング ID、パスワードは、他人に教えないでください。

### <当日のお願い>

- ◆待機室を設定している場合、所定時刻の 5 分ほど前に設定を解除して入室できるようにします。ただし、直前の打ち合わせが長引くなどで、待機室の設定解除が遅れることもあります。その場合は待機室でお待ちください。
- ◆ミーティングルームに入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作をすることがあります。
- ◆画面に表示する氏名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。
- ◆研究例会は、研究委員会が記録用にレコーディングします。接続・参加をもってレコーディングに承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が Zoom の画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

### <配布資料について>

- ◆報告者から当日配布資料があるときは、Zoom のチャット機能を利用して配布します。
- ◆配布のタイミングは、各報告の開始時と開始 10 分後の 2 回です。

### <質問・発言について>

- ◆質疑応答の際には、チャットで発言希望の旨をお伝えください。司会者の許可なく発言することはご遠慮ください。

### <当日の Zoom 操作に関する相談窓口>

- ◆当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、Zoom 操作に関する相談窓口としてサポートセンターを開設します。メールでご連絡ください。

### 当日サポートセンターの連絡先

◇メールアドレス [le1408aucha@gmail.com](mailto:le1408aucha@gmail.com)

（小文字のエル・イー・数字の 1408・小文字のエー・ユー・シー・エイチ・エー@…です）

◇当日配布資料の再配布はありません。

### <終了後の懇談について>

- ◆研究例会は 16 時終了の予定ですが、終了後 30 分間程度、Zoom のミーティングルームを開放しておく予定です。意見交換や情報交換、懇談などにご活用ください。例会とあわせてご参加をお待ちしています。

### <問い合わせ先>

- ◆当日の Zoom 操作に関すること以外は、研究委員長（丸山真央、[maruyama.ma](mailto:maruyama.ma@shc.usp.ac.jp)[アット]shc.usp.ac.jp) までメールでお問い合わせください。[アット]を@にしてください。

## 1. 理事会からの報告

2021年度地域社会学会第3回理事会は、2021年12月4日（土）10時から12時分まで、オンラインで開催されました。ここでは報告事項として7件、協議事項として4件が議論されました。

出席理事(16名)浅野慎一、鯨坂学、伊藤亜都子、大倉健宏、小内透、木田勇輔、清水亮、高木竜輔、田中里美、玉野和志、中澤秀雄、二階堂裕子、丸山真央、室井研二、矢部拓也、吉野英岐  
オブザーバー参加（次期大会開催校）：新藤慶  
欠席：速水聖子、藤井和佐、文貞實、徳田剛

### 報告事項

前回理事会（10月9日）議事録案確認

1. 研究委員会
2. 編集委員会
3. 国際交流委員会・ISA-RC21 担当
4. 社会学系コンソーシアム担当
5. 地域社会学会賞担当
6. 次回大会について（続報）
7. 事務局報告

### 協議事項

1. 会員異動について
2. EBSCO オンライン学術論文データベースへの参加について
3. ジャーナル発行規程の改正（“Urban and Regional Studies beyond Borders”のジャーナルへの掲載等）について
4. その他

報告事項のうち、研究委員会、編集委員会、事務局からの報告の詳細は各委員会報告・事務局報告をご覧ください。ここではその他の委員会等からの報告を記載します。国際交流委員会・ISA-RC21 担当からは、ISA-RC21 が2022年8月22日～26日にアテネで開催予定であることが報告されました。社会学系コンソーシアム担当からはコンソーシアムの会長および事務局担当職員が交代したことが報告されました。地域社会学会賞担当からは例年通り、推薦が集まりつつあり、12月12日に部会を開催する予定であることが報告されました。オブザーバー参加の次回大会開催校からは、5月14日～15日の大会時の会場までの移動は、公共交通の利用を基本とすること、大会2日目の昼食は弁当（850円）の注文を取る予定であることが報告されました。

### 協議事項

1. 会員異動について  
吉野庶務担当理事より退会希望者5名（吉井美和子会員、渡部芳栄会員、李妍焱会員、松岡昌則会員、中村良二会員）の退会が認められました。
2. EBSCO オンライン学術論文データベースへの参加について  
上記データベースへの参加が承認され、契約の署名は会長にお願いすることとしました。
3. 地域社会学会ジャーナルの発行規程の一部改正と掲載内容の変更  
(1) “Urban and Regional Studies beyond Borders”のジャーナルへの掲載  
審議の結果、発行規程を改正して掲載されることが認められました。

## (2) 掲載論考の一部削除

研究委員会から提案のあった大会シンポジウム報告者の報告論文（旧会報の報告要旨・3000～8000字）の削除について、種々意見が出され、審議の結果、削除することとしました。さらに、企画部会の報告論文（旧会報の報告要旨・3000～8000字）も削除することとしました。

## 4. その他

### (1) 年報のPDFファイル化→J-STAGEへの登録について

玉野理事より年報のPDFファイル化→J-STAGEへの登録について、費用を40周年記念基金から支出してきたことが紹介されました。ただ、これまでアルバイト学生の作業費が40周年基金から支出されていないことや、以前の理事会で32集以降は一般会計から支出することが認められたことから、事務局から今後の追加登録に関わる費用は一般会計から支出したいという希望がございました。基金の一般会計への組み入れについては、基金を使い切ることも必要ではないかという意見も出され、今後検討することとしました。

### (2) 学会HPリニューアル・事務局業務のアウトソーシング

トップページのお知らせ、年報の論文募集の部分など早急な更新が必要であることが指摘されました。また学会HPリニューアル・事務局業務のアウトソーシングについては今後、会長と事務局で協議することとしました。

(吉野英岐)

## 2. 研究委員会からの報告

11月30日に第3回研究委員会をZoomで開催し、第4回研究例会と第47回大会シンポジウムの企画・運営について議論しました。次回大会のシンポは「ウィズ・アフター・コロナ時代の移動（モビリティ）と地域社会（仮）」というテーマで企画を進めていくことになり、報告者や討論者の候補を検討しました。出席者は鯉坂学、二階堂裕子、丸山真央、文貞實、小山弘美、原田峻、前島訓子、山口博史の各委員でした（敬称略）。

12月4日にZoomで開催された第3回研究例会は、前半は学会賞受賞者の原田峻会員による報告、後半は連続企画「コロナ禍の中の地域社会学の研究実践と教育実践——その1 調査実習をめぐって」の2本立てでした。参加者は33名（最大時）でした。報告や議論の内容は『地域社会学学会ジャーナル』第4号の報告論文と批評論文をご参照ください。

次回、2月5日に開催する第4回研究例会も、90分ずつ前後半に分けておこないます。前半では、新型コロナ禍の中で注目されることが増えた疫学と地域社会学との接点について、両分野を横断しながら研究している大倉健宏会員（麻布大学）にご報告いただきます。

後半では、第3回研究例会に続いて、連続企画「コロナ禍の中の地域社会学の研究実践と教育実践——その2 フィールド調査をめぐって」を開催します。地域社会学の重要な研究方法である現地調査や対面インタビューが、コロナ禍で難しくなっていますが、他方でそれを乗り越える試みも様々になされています。今回は若手研究者2名の方から、フィールド調査の困難と工夫について話題提供をしていただき、コロナ禍での調査研究について、会員の皆様と広く意見や情報交換をしながら議論したいと考えています。皆様のご参加をお待ちしています。

(丸山真央)

## 3. 編集委員会からの報告

第3回編集委員会は11月28日にオンラインで開催され、年報34号（2022年5月刊行予定）の編集の進捗状況について確認、審議しました。自由投稿論文は8本の投稿があり、現在査読中です。特集論文はシンポジウム（「パンデミックと都市・地域—新型コロナ禍の中で地域社会学は何を問うのか」）と研究委員会企画（「東日本大震災10年と地域社会学」）の登壇者に寄稿を依頼

し、解題を含めて計 8 本が掲載される予定です。また、書評 11 本、自著紹介 1 本、ビューポイント 1 本が掲載される予定です。査読、執筆に協力頂いた先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。なお、編集委員会への出席委員は室井、船戸、藤井、大倉、伊藤、堤、木村の 7 名でした。  
(室井研二)

#### 4. 事務局からの報告

##### (1) 会費納入状況

第 3 回理事会で高木財務担当理事より資料に基づいて会費の納入状況の報告がありました。2021 年 12 月 4 日時点の会員は 390 名（一般 351 名、院生 27 名、終身 12 名）で、2021 年度の会費納入率は 82.0% でした。今年度までの 4 年以上滞納者は 4 名、3 年滞納者 6 名でした。

##### (2) 会報・ジャーナルの発行

第 3 回理事会で吉野庶務担当理事より会報 224 号とジャーナル No. 3 がWEB版で発行されたことが報告されました。

(吉野英岐)

#### 5. 地域社会学会第 47 回大会の予告、自由報告の募集

地域社会学会第 47 回大会が、2022 年 5 月 14 日（土）・15 日（日）の両日、群馬大学（群馬県前橋市）で開催されます。現時点では対面開催の予定ですが、状況に応じて、Zoom 等を活用したオンラインでの開催となる可能性もあります。

自由報告を希望される方は、題目と簡単な内容（100 字程度）を 2022 年 2 月末日必着で、下記のアドレスまでメールでお送りください。受理した場合、行き違いを避けるために受理確認メールを返送します。万が一、確認メールが届かない場合は、メールその他の手段で下記まで連絡してください。

その後、2022 年 3 月 20 日（日）必着で、報告要旨（A4 版用紙で 40 字×40 行を 1 枚）を電子ファイル（Word）で下記まで送信してください。その際、PDF ファイルもあわせてお送りください。

<提出先・連絡先>

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500 滋賀県立大学人間文化学部 丸山真央  
電話：0749-28-8438 E-mail：maruyama.ma@shc.usp.ac.jp

※なお、自由報告を行う場合、2021 年度までの会費の納入が済んでいる必要があります。

※自由報告のために入会を希望する場合、2 月の理事会で入会承認が必要です。希望する方は、2 月 4 日（金）（必着）までに事務局に入会申込書をご送付ください。

(丸山真央)

#### 6. 事務局からのお祝いとお知らせ

##### (1) 冊子体名簿作成のご協力のお祝い

現在、冊子体名簿作成に向けて、会員調査を行っているところです。各会員には郵送物を送りましたが、同封の葉書を使って回答していただければと思います。時間がなく、大変申し訳ありませんが、1 月 31 日までに投函いただければと思います。なお、Google フォーム

(<http://ur2.link/0Jjc>)にて回答することも可能です。到着した郵送物を確認した上で、ご回答ください。年度末のお忙しいタイミングではありますが、ご協力いただきますよう、よろしくお祈りいたします。

## (2) 2021年度の会費納入のお願い

2021年度の会費納入について、未納入の場合は納入をよろしくお願ひします。郵送された払込用紙のない方は、郵便局の窓口備え付けの青い払込用紙に、口座番号(00150-2-790728)、加入者名(地域社会学会)、会員ご本人の氏名・ご住所と、通信欄に「2021年度会費」と明記の上、会費(一般会員6,500円、院生会員5,000円)のご送金をお願いします。2021年度分の会費の振込確認ができた会員には、『地域社会学会年報』第33集をお送りします。

## (3) 会員の研究成果情報の提供のお願い

引き続き、2020年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙(地域社会学会WEBサイトからワード版がダウンロードできます)の情報を、事務局宛のメール(あるいはファックス)でお送りください。ご協力よろしくお願ひします。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願ひします。  
(吉野英岐)

## 7. 会員異動

<略>

## 8. 会員の研究成果情報(2020年~2021年)

### 2020年

#### 〔書籍・分担執筆〕

室井研二「環境と災害のゆくえ」友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』丸善出版、2020年11月

#### 〔その他〕

室井研二「臨海工業都市の災害—伊勢湾台風後のコミュニティと災害脆弱性」『東海社会学会年報』第12号、2020年10月

室井研二「方法としての災害社会学」『西日本社会学会年報』第18号、2020年5月

室井研二「災害社会学の理論的系譜と課題(下)」『名古屋大学社会学論集』No.40、2020年3月

### 2021年

#### 〔雑誌論文〕

室井研二「震災復興過程における防災—東日本大震災三陸津波被災地を中心に—」『地域創生学研究』第4号、2021年3月

#### 〔その他〕

室井研二「仙台都市圏における震災復興—アーバンフリンジ(周辺地域)の動向を中心に—」『災害と開発 研究報告書(1)』2021年3月

## 8. 理事会のご案内

第4回理事会

日時 2月5日(土) 10:00~12:00      オンライン